

第9回 鳥海ダム環境影響評価技術検討委員会 技術的助言

日時：平成30年6月18日（月）14：00～16：00

場所：秋田拠点センターALVE（アルヴェ）公共棟2F多目的ホール

① 総論(1)調査・予測評価の再実施

No.	意見	回答及び対応方針
1	「予測しえない環境変化」や、「影響が著しい」場合、「重大な影響」があった場合に環境保全措置を講ずるとの見解であるが、このような影響の把握にはモニタリングの実施と、その適切な評価が重要である。	工事中及び供用後には、モニタリング調査を実施する計画としており、この調査結果について、専門家の助言等を踏まえて適切に評価し、必要な環境保全措置を講じていく。

② 各論(3)景観に対する影響

No.	意見	回答及び対応方針
1	環境保全措置において、低明度・低彩度の色彩の採用を挙げているが、ブラウン系やオーリーブ系の色彩を採用する等、より具体的な記述が必要である。	指摘を踏まえ、以下のとおり評価書を補正する。 （補正前） 付替道路構造物に低明度・低彩度の色彩を採用する。 （補正後） 付替道路構造物に低明度・低彩度のブラウン系やオーリーブ系の色彩を採用する。

③ 国土交通大臣意見以外の箇所

No.	意見	回答及び対応方針
1	沈砂池の設置について、施工範囲を分割して整備するため小規模な泥溜を設置するとしているが、当該地域の土砂は細粒分が多く沈降しにくいいため、細粒分の処理に関する記述が必要である。	指摘を踏まえ、以下のとおり評価書を補正する。 （補正前） 道路詳細設計や具体的な施工計画等を進める上で河川に流出する濁りを防止又は軽減する措置も含めて検討する。 （補正後） 道路詳細設計や具体的な施工計画等を進める上で細粒分の処理を含めた濁水対策を検討する。
2	水素イオン濃度の評価において、ダム建設前後で大きな変化は見られないとしているが、平均値で見た場合には変化がないように見えても、ダム直下地点では時期的に変化がある。これを踏まえた表現とすることが必要である。	指摘を踏まえ、以下のとおり評価書を補正する。 （補正前） 水素イオン濃度については、ダム建設前後で大きな変化は見られない。 （補正後） 水素イオン濃度については、ダム建設前後においてダム直下流地点で変化は見られるものの、その下流で大きな変化は見られない。